

財団創立80周年記念特別展

根津美術館の

国宝・重要文化財

Special Exhibition Commemorating the 80th Anniversary of the Founding of the Nezu Museum

National Treasures and Important Cultural Properties in the Nezu Collection

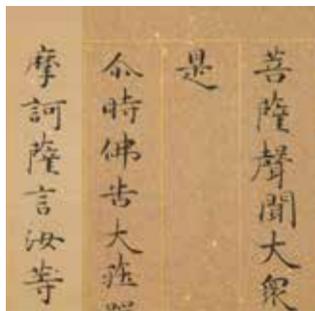
昭和15年（1940）年1月4日、実業家・初代根津嘉一郎（1860～1940）は、80歳の生涯を終えました。同年11月、2代目嘉一郎が初代の蒐集した日本・東洋の古美術品と、南青山の土地・邸宅を寄付して、財団法人根津美術館を創立してから今年で80年になります。

初代嘉一郎の蒐集品の核となるのは、とくに晩年に親しんだ茶の湯の道具と、宗派に依らぬ寺院建立を目指して集めた仏教美術ですが、そのほかにも中国の古代青銅器をはじめとして、作品の分野は実に多岐にわたります。それは、みずからの好みにかかわらず、古美術品の海外流出を止め、後世に伝えようとの使命感によるものでした。

明治維新による価値観の変化によって危機に瀕した、古社寺の建物や宝物を保護する目的で制定された「古社寺保存法」（明治30年・1897）、国宝指定の範囲を個人の所蔵品にまで広げた「国宝保存法」（昭和4年・1929）、海外流出防止の目的で設けられた「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」（同8年）。これら、国の文化財保護行政の目指すところと初代嘉一郎の蒐集方針は通底していたのです。

奇しくも今年は、初代嘉一郎没後の昭和25年に現在の文化財保護法が制定されてから、70年目に当たります。同法に則って指定された根津美術館の国宝は7件、重要文化財は88件を数え、初代嘉一郎の鑑識眼の確かさを裏付けています。

加えて初代嘉一郎の生誕160年でもあるこの節目の年、根津美術館の収蔵品の根幹をなす指定品95件をすべてご披露する展覧会を企画しました。一堂に会した名品の数々を是非ご堪能ください。



2020年 11月14日(土)～12月20日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



展示期間：11/14（土）～11/29（日）

「牧谿」—水墨画のお手本



国宝
ぎょそんせきしやうず もつけい
漁村夕照図 牧谿筆
1幅 紙本墨画
中国・南宋時代 13世紀

南宋の画僧・牧谿が中国江南の景勝地を描いた「潇湘八景」のうちの一図。江南地方特有の湿潤な空気と夕暮れの光芒を、水墨の濃淡のみで劇的に描いた名品で、足利義満の所蔵印が捺される。牧谿画は日本の画人に多大な影響を与え、水墨画の規範となった。

那智瀧。それは神仏の姿



国宝
なちのたきず
那智瀧図
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 13～14世紀

那智山を一直線に落ちる瀧を描くこの縦長の作品は、ご神体としての那智瀧を表すだけでなく、仏教が説く観音の権現（姿を変えたもの）をも意味している。日本独自の自然観や信仰のあり方を示す宗教画の最高峰として名高い。

平安貴族の美意識がここに



重要文化財
だいにちよらいぞう
大日如来像（部分）
1幅 絹本着色
日本・平安時代 12世紀

密教の根本経典『金剛頂経』が説く教主・大日如来を描いた独尊画像。しかしその遺例は、意外に少ない。その代表作といえる本図は、院政期の貴族趣味を反映した壮麗な装飾に彩られた美作としても名高い。岩手・中尊寺伝来。

重要文化財

かんぼくず げいあみ
観瀑図（部分） 芸阿弥筆
1幅 紙本墨画淡彩
文明12年（1480）

芸阿弥が、京での絵画修行を終えた鎌倉・建長寺の画僧・祥啓に贈った作品。その明快な構図と色彩感覚は、のちの東国画壇に大きな影響を与えており、絵画史的意義は極めて大きい。



京から鎌倉へ、東国画壇のルーツ

唐の女帝ゆかりの名品



重要文化財
じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞうがん
十一面観音菩薩立像龕（部分）
1面 石造
中国・唐時代 8世紀

唐の則天武后によって造像された宝慶寺石仏群のうちの一つ。均整のとれた体軀や写実性の高い面貌表現は、初唐最末期の高度な造像技術を明確に示している。

展示期間：11/14（土）～11/29（日）

江戸琳派の鬼才・鈴木其一



重要文化財
なつあきけいりゅうずびょうぶ すずき きいつ
夏秋溪流図屏風 鈴木其一筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 19世紀

濃密に描きこまれた画面の随所に、非現実的な感覚がにじむ。江戸琳派の鬼才・鈴木其一（1796～1858）の代表作。本年、新たに重要文化財に指定された。

展示期間：12/1（火）～12/13（日）

圧倒的オーラを放つ金屏風



国宝
かきつばた ずびょうぶ おがたこうりん
燕子花図屏風 尾形光琳筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀

大画面に堂々と、かつリズムカルに描かれ、圧倒的オーラを放つカキツバタの群生。尾形光琳（1658～1716）が画業の最初にたどりついた芸術的頂点である。

展示期間：12/15（火）～12/20（日）

写生と装飾。奇跡の融合



重要文化財
ふじはなずびょうぶ まるやまおうきよ
藤花図屏風 円山応挙筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 安永5年(1776)

幹は一気呵成の筆さばきながら立体感を備え、花房は精緻な点描でまるで宝石のようだ。高度な技法で写生と装飾を融合した円山応挙（1733～95）の真骨頂。

異名は「高射砲」。無双の三器



重要文化財
とうつもんほうか
饗饗文方盃
3個 青銅
中国・殷時代
紀元前13～前12世紀

酒を注ぐための器で、殷墟の王墓から発掘されたと伝わる。三点一組での出土は極めて珍しく、類品の中では最大級の偉容を誇る。

自信の鑑識眼

国宝・重要文化財に指定された作品が合計95件にも上るといえるのは、私立美術館の中ではトップクラスの数字です。しかもそれらの大半は初代根津嘉一郎（1860～1940）が購入したのちに、新たに指定されたものでした。

当時すでに旧制度の国宝や重要美術品の指定



品が存在していましたが、若い頃から古美術蒐集を始めていた嘉一郎は、過去の失敗を糧としながら、既成の評価にとらわれることなく、自身の眼を信じて名品を発掘しました。

（昭和7年、自宅での嘉一郎。左端の「地藏菩薩立像」は昭和17年に「重要美術品」に、さらに平成15年には「重要文化財」に指定された。）

展示期間：12/1（火）～12/20（日）

展示期間：11/14（土）～11/29（日）

極楽往生を夢見て
經典を飾る



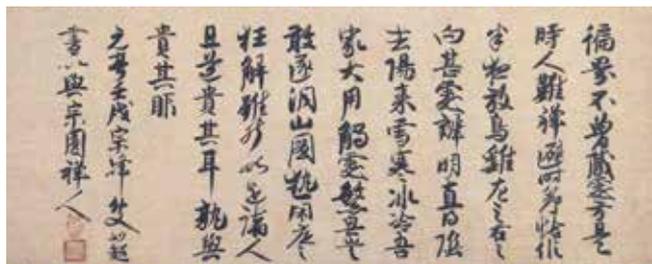
国宝
むりょうぎきょう かんふげんきょう
無量義經（右）・観普賢經（左）（部分）
2巻 彩箋墨書
日本・平安時代 11世紀

濃淡の茶色の染紙を交互に継いだ色紙経の逸品。金砂子を撒いて金泥の界（罫）を引く。典雅な和様の書が魅力的な両巻は、別々の伝来をたどり、当館で邂逅した。



重要文化財

しゅうほうみょうちゆうぼくけき ほうご
宗峰妙超墨蹟 法語
1幅 紙本墨書
日本・鎌倉時代
元亨2年（1322）



京都・大徳寺を開いた禅僧、宗峰妙超（大燈国師、1282～1337）の書。冬至の前日に行われた説法で述べた言葉を、弟子の宗門禅人に書き与えた。41歳の時に書いた、大燈の遺墨中でも早い時期の作例として貴重。

室町将軍のお気に入り



重要文化財
かすがやまきえすずりぼこ
春日山時絵硯箱
1合 木胎漆塗
日本・室町時代 15世紀

足利義政遺愛品と伝えられる、室町時代の時絵技術の粋が結集した硯箱。蓋の表裏に描かれた情景と、そこに溶け込むように散らされた文字から、見る者に『古今集』壬生忠岑の歌を読み解かせる、機知に富んだ意匠である。

仁清の革新。
豪華絢爛の茶壺



重要文化財
いろえやまでらすちやつぼ ののむらにんせい
色絵山寺図茶壺 野々村仁清作
1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀

茶人に好まれた唐物の褐釉茶壺の形を借りて、仁清は華やかな色絵と金銀彩の小振りの茶壺を作った。現在国宝に指定されている「藤花図茶壺」（MOA美術館蔵）と並び、丸亀藩京極家の注文で仁清が制作した一連の茶壺の1つである。

大徳寺の開山、弟子を導く

下ぶくれがやさしい金襴手



重要文化財
ごさいほうそうげもんべい
五彩宝相華文瓶
景德鎮窯
1口 施釉磁器
中国・明時代 16世紀

「五彩」とは赤や緑などの上絵付がある中国のやきもののこと。なかでも本作は、華やかな金彩と、堂々とした下膨れの姿が珍しい逸品。

信長も秀吉もこれで一服？



重要文化財
あおいどちやわん しばた
青井戸茶碗 銘 柴田
1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 16世紀

武将・柴田勝家が織田信長から拝領した茶碗で、「柴田」の銘がある。淡い枇杷色の釉が総体にかかり、一部で青味が表れる。青井戸としては、最も整った姿、作行きをみせる茶碗である。

表紙の作品 上：(左上より時計回りに) 漁村夕照図 中国・南宋時代 13世紀/那智滝図 日本・鎌倉時代 13～14世紀/無量義經・観普賢經 日本・平安時代 11世紀/燕子花図屏風 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 (いずれも国宝)
下：(左上より時計回りに) 花白河時絵硯箱 日本・室町時代 15世紀/双羊尊 中国・おそらく湖南省 紀元前13～前11世紀/五彩宝相華文瓶 景德鎮窯 中国・明時代 16世紀/十一面観音菩薩立像 中国・唐時代 8世紀/鏤絵染付金彩絵替土器皿 尾形乾山作 日本・江戸時代 18世紀 (いずれも重要文化財)

※会期中、一部作品に展示替えがあります。
※本リリース掲載の作品はすべて根津美術館の所蔵品です。

このほかの国宝・重要文化財作品より

国宝	・ 羈 ^{うづら} 函 伝 李安忠筆	1 幅	中国・南宋時代 12～13 世紀
	・ 布袋 ^{ほていしやう} 蔣 ^{まかもんどう} 摩 ^ず 訶 ^か 問 ^{もん} 答 ^た 函 因陀羅筆 楚石梵琦贊	1 幅	中国・元時代 14 世紀
	・ 根本 ^{こんぽん} 百 ^{ひゃく} 一 ^{いつ} 菟 ^う 磨 ^ま 卷第六	1 幅	日本・奈良時代 8 世紀
重要 文化財	・ 華 ^け 嚴 ^{げん} 經 ^{きやう} 卷第四十六 (二月堂焼経)	1 卷	日本・奈良時代 8 世紀
	・ 古今 ^{こきん} 和 ^わ 歌 ^か 集 ^{しゆ} 藤原 ^{ふじわら} 為 ^{ため} 氏 ^{うぢ} 筆	1 帖	日本・鎌倉時代 13 世紀
	・ 無 ^む 学 ^{がく} 祖 ^そ 元 ^{げん} 墨 ^{ぼく} 蹟 ^{せき} 附 ^ふ 衣 ^え 傷 ^{けだん} 断 ^{かん} 簡 ^{かん}	1 幅	日本・鎌倉時代 弘安 3 年 (1280)
	・ 夕 ^{せき} 陽 ^{やう} 山 ^{さん} 水 ^{すい} 図 ^ず 馬 ^ま 麟 ^{りん} 筆 理 ^り 宗 ^{そう} 賛	1 幅	中国・南宋時代 13 世紀
	・ 竹 ^{ちく} 雀 ^{じゃく} 図 ^ず 伝 牧 ^{まき} 谿 ^き 筆	1 幅	中国・元時代 13 世紀
	・ 阿 ^あ 弥 ^み 陀 ^だ 如 ^{にょ} 来 ^{らい} 像 ^{ざう}	1 幅	朝鮮・高麗時代 大德 10 年・忠烈王 32 年 (1306)
	・ 金 ^{こん} 剛 ^{ごう} 界 ^{かい} 八 ^{はち} 十 ^{じゅう} 一 ^{いつ} 尊 ^{そん} 曼 ^{まん} 荼 ^だ 羅 ^ら	1 幅	日本・鎌倉時代 13 世紀
	・ 華 ^け 嚴 ^{げん} 五 ^ご 十 ^{じゅう} 五 ^ご 所 ^{しよ} 絵 ^え (善 ^{ぜん} 財 ^{さい} 童 ^{どう} 子 ^し 歴 ^{れき} 參 ^{さん} 図 ^ず)	6 面	日本・平安時代 12 世紀
	・ 天 ^{てん} 狗 ^く 草 ^{そう} 紙 ^し 絵 ^え 巻 ^{まき}	1 卷	日本・鎌倉時代 13 世紀
	・ 江 ^{かう} 天 ^{てん} 遠 ^{えん} 意 ^い 図 ^ず 伝 周 ^{しゅう} 文 ^{ぶん} 筆 大 ^{だい} 岳 ^{ごく} 周 ^{しゅう} 崇 ^{そう} ほか 11 僧 ^{そう} 賛	1 幅	日本・室町時代 15 世紀
	・ 青 ^{せい} 磁 ^じ 筒 ^{つう} 花 ^か 入 ^{いれ} 銘 ^{めい} 大 ^{だい} 内 ^{ない} 筒 ^{つう} 龍 ^{りゅう} 泉 ^{せん} 窯 ^{やう}	1 口	中国・南宋時代 13 世紀
	・ 肩 ^{かた} 衝 ^{つき} 茶 ^{ちや} 入 ^{いれ} 銘 ^{めい} 松 ^{まつ} 屋 ^や 福 ^{ふく} 州 ^{しゅう} 窯 ^{やう} 系 ^{けい}	1 口	中国・南宋～元時代 13～14 世紀
	・ 堅 ^{かた} 手 ^て 茶 ^{ちや} 碗 ^{わん} 銘 ^{めい} 長 ^{なが} 崎 ^{さき} 高 ^{かう} 麗 ^{れい} 茶 ^{ちや} 碗 ^{わん}	1 口	朝鮮・朝鮮時代 16 世紀
	・ 鼠 ^{ねず} 志 ^し 野 ^の 茶 ^{ちや} 碗 ^{わん} 銘 ^{めい} 山 ^{やま} の ^の 端 ^は 美 ^み 濃 ^{のう}	1 口	日本・桃山～江戸時代 17 世紀
	・ 青 ^{せい} 磁 ^じ 蓮 ^{れん} 華 ^か 唐 ^{たう} 草 ^{そう} 文 ^{ぶん} 淨 ^{じやう} 瓶 ^{びん}	1 口	朝鮮・高麗時代 12 世紀
	・ 双 ^{そう} 羊 ^{やう} 尊 ^{そん}	1 個	中国・おそらく湖南省 紀元前 13～前 11 世紀
	・ 釈 ^{しゃく} 迦 ^か 多 ^た 宝 ^{ほう} 二 ^に 仏 ^{ぶつ} 並 ^{びやう} 坐 ^ざ 像 ^{ざう}	1 基	中国・北魏時代 太和 13 年 (489)

※会期中、一部作品に展示替えがあります。
※上記はすべて根津美術館の所蔵品です。

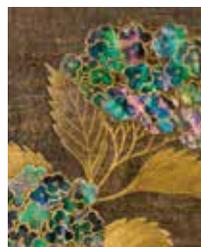
開催概要

展覧会名	財団創立 80 周年記念特別展「根津美術館の国宝・重要文化財」
	日時指定予約制 ご来館前日までに当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
主催	根津美術館
開催期間	2020年11月14日(土)～12月20日(日)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日(ただし11月23日<月・祝>は開館し、翌24日<火>休館)
入館料	一般 1500円(1300円) 学生 1200円(1000円) ※本展覧会より、入館料を一律200円値上げいたします。 ※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線<表参道>駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 お問合せ	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 Tel. 03-3400-2536 (代表) website http://www.nezu-muse.or.jp

次回展 企画展「きらきらでん」 2021年1月9日(土)～2月14日(日)

貝の輝く真珠層を模様の形に切り抜いたもので装飾する漆工・木工技法、螺鈿。日本における受容と展開の歴史をたどります。

左：楼閣人物文螺鈿箱 (部分)
中国・元時代 13～14 世紀
右：紫陽花螺鈿時絵桜皮文箱 (部分)
日本・江戸時代 18 世紀
いずれも根津美術館蔵



同時開催展

展示室 5 ひやくちんず 百椿図—公家日記の中の椿—
展示室 6 たてまき 点初め—新年の茶会—

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2020.8.)